



梅若研能会

一月公演

【翁】三世 梅若万三郎 (前島写真店)

令和7年1月13日 (月・祝) 午後1時始 (開場12時)
於 国立能楽堂

National Noh Theater 4-18-1, Sendagaya, Shibuya-ku, Tokyo
Monday holiday 13 January 2025 Start 13:00 (door open 12:00)

国立能楽堂

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1
☎ 03 (3423) 1331

- JR千駄ヶ谷駅 徒歩5分
- 大江戸線・国立競技場駅 徒歩5分
- 副都心線・北参道駅 徒歩7分



入場料 (全席指定)

指定席 A 7,000円	指定席 B 6,000円
指定席 C 4,000円	指定席 GB 5,000円

※学生席 (要学生証) 各席 3,000円引き

お問い合わせ・お申し込み

e+ (イープラス) <https://eplus.jp/ath/word/69495>

カンフェティ TEL0120 (240) 540 (平日10:00-18:00)

<http://www.confetti-web.com/umeken>

主催 公益財団法人 梅若研能会

〒151-0066 渋谷区西原1-4-2 TEL 03 (3466) 3041

《メールアドレス》 staff@umewakakennohkai.com

《ホームページ》 <http://www.umewakakennohkai.com>

YouTube 演目の見どころ解説動画を公開中!

Facebook フェイスブックはじめました! 公演情報更新中!

令和7年梅若研能会 公演開催日のお知らせ

四月公演	4月 5日 (土)	国立能楽堂 「善知鳥」 青木健一、「雷電」 古室知也
六月公演	6月 21日 (土)	観世能楽堂 「西王母」 青木一郎、「芦刈」 梅若志長
十二月公演	12月 6日 (土)	国立能楽堂 「三輪」 八田達弥、「俊寛」 加藤眞悟



【嵐山】三世 梅若万三郎 (前島写真店)

「翁」、能「嵐山」 みどころ講座

12月22日 14:00 ~ 15:30

於・梅若万三郎家能舞台 (渋谷区西原1-4-2)

受講料 1,000円 (※研能会入場券購入者は無料)

講師 「翁」梅若 紀長 (うめわか のりなが)

「嵐山」長谷川 晴彦 (はせがわ はるひこ)

梅若研能会 一月例会

令和七年一月十三日(月・祝)午後一時始(十二時開場) 於 国立能楽堂

(二時)

翁



翁 梅若 紀長
千歳 梅若万佐志
三番叟 野村 遼太
面箱 飯田 豪

笛 松田 弘之
頭取 久田舜一郎
脇鼓 飯富 孔明
脇鼓 長尾 樹
大鼓 大倉栄太郎

後見 加藤 眞悟
狂言後見 野村 萬斎
梅若 志長
中村 政裕
梅若 泰志
伊藤 嘉章
八田 達弥
青木 健一



【翁】三世 梅若万三郎 (前島写真店)

翁 (おきな)

能が成立する以前の猿楽の本芸と考えられています。それゆえ、常の能の演目とは異なる点が数多くあります。常の能では、地謡は舞台右手奥に座りますが、囃子方の後ろに座ります。また常の能の小鼓は一人ですが、「翁」では三人の鼓と一緒に演奏します。翁の着ける面の白式尉、三番叟の黒式尉は共に神聖な物と見なされ、それらの面を演者は舞台の上で着けて神の役となります。ほかにも「翁」の出演者は皆、常の紋付き袴や袴姿ではなく、素襦や直垂といった礼装姿で登場するなどの違いがあります。

翁面は他の演目で使用される面と異なり、下顎が切り離され、上顎と紐で結び付けられています。皺やぼうぼうの眉、黒目と白目の境がなく全体がくり抜かれた目などが特徴です。黒式尉の面も白式尉と同様に上顎と下顎が切り離され、紐で結びつけられた形状です。

世の中の平和や祝福を祈る「翁」では、呪文のような文句や、鶴・亀・万歳楽・千秋楽などのおめでたい言葉が出てきます。また、若者らしい千歳の颯爽とした舞、翁の厳肅な舞、三番叟の躍動感ある「揉ノ段」と、静から動への変化が楽しい「鈴ノ段」というように、それぞれの舞も特色もはっきりしています。囃子の音色も舞の雰囲気に合わせて変わり、謡と舞を盛り上げていきます。

「翁」は新年や舞台披きなど祝賀の機会に演じられるおめでたい演目です。

狂言 筑紫奥 (つくしのおく)

年貢を納めるために都へと向う奥筑紫と丹波国の百姓は道中行き合い、同道することになります。さて、ともに年貢を無事に納め、奥筑紫の百姓が唐物(中国の渡来品)を、丹波国の百姓が柑類(果物)をそれぞれ納めたと、その品々を数え上げて奏者(取次役人)に報告します。さらに万雑公事(諸雑税)を免除された二人は大いに喜び、ともに声をあげて大笑いしますが、それを奏者に咎められ、それぞれ自分の耕作する田一反につき一笑いせよと命じられて……。

(二時十分頃)

狂言 筑紫奥

シテ(奏者) 野村 万作
アド(筑紫奥の屋) 中村 修一
小アド(丹波の国の屋) 内藤 連
後見 岡 聡史



【筑紫奥】野村万作 (撮影・政川慎治)

仕舞

老松 屋島 草子洗小町 岩船

青木 一郎
八田 達弥
古室 知也
梅若 志長
萩原 郁也
遠田 修
中村 裕
梅若 紀佳

休憩二十分

(三時二十分頃)

能 嵐山



長谷川晴彦

前シテ(尉) 長谷川晴彦
後シテ(蔵王権現) 梅若 泰志
前ツレ(姥) 梅若 千音世
後ツレ(勝手明神) 梅若 千音世
後ツレ(子守明神) 加野 鉄音
ワキ(勅使) 野口 能弘
ワキツレ(従者) 野口 琢弘
ワキツレ(従者) 野口 琢弘
アイ(末社) 野村 裕基

笛 藤田 次郎
小鼓 鶴澤洋太郎
大鼓 柿原 弘和
太鼓 林 雄一郎
後見 中村 裕
梅若 紀佳
青木 健一

萩原 郁也
遠田 修
伊藤 嘉章
梅若 志長
伊藤 嘉章
中村 政裕
青木 一郎
古室 知也
加藤 眞悟

(終演予定) 四時四十五分頃



【嵐山】(前島写真店)

能 嵐山 (あらしやま)

満開の桜に華やぐ京都・嵐山を舞台とした、春の能です。古来、日本人は、桜とその景色を非常に大切にしてきました。桜をテーマにした能は、たくさんありますが、「嵐山」は日本人が抱いてきた、「桜の木には神々が宿る」という自然な思いを、まさに体現した能です。

そして、嵐山には、嵐という花を吹き散らす言葉が含まれているのですが、「嵐」の名に象徴される多くの困難や悪にも負けずに、平和で美しい世界が続いてほしいと願い、祈る人々の心の深さを表した能だともいえます。

物語そのものは脇能らしく、至ってシンプルですが、神々しく清らかに、そして美しく開かれていく桜の世界をじっくりと味わえるでしょう。